



「学校教育目標」  
 絆を深め、地域社会に  
 貢献できる生徒の育成  
 ○自ら学ぶ ○思いやる  
 ○体を鍛える

文責 竹田 圭志

## 保護者、地域の皆様へ（お礼）

本日、令和4年度のすべての教育課程を終了し、無事、修了式を迎えることができました。これもひとえに、保護者、地域の皆様のご理解とご協力、そして、子供たちへの愛情の賜物だと、教職員一同、深く御礼申し上げます。新年度になりましても、引き続き、ご支援をよろしくお願い致します。

## 1・2学年 授業参観・保護者会

3月17日（金）の5校時に1・2学年の授業参観を、その後、各学級の教室で学年保護者会を実施しました。

保護者の皆様にはご多用の中、多数ご参会いただきありがとうございました。

ここ数年、コロナ禍でもあり、保護者の皆様に従来のような形で授業を参観していただく機会がとれずに申し訳ない気持ちでしたが、この日は、教室で参観していただくことができました。

授業をご覧いただき、4月から1年間の成長を少しでも感じていただけたら幸いです。

保護者会では、1年間の子供たちの成長や進級に当たっての心構えなどについてお知らせしました。また、学年費・旅行積み立て費などについての会計報告をさせていただきました。当日ご都合により参加できなかったご家庭は、お子様を通じて配付された資料をご覧ください。



## 榎台中産トロロアオイで細川紙の「しおり」完成

本校で栽培したトロロアオイから「ねり」を抽出する体験授業を1年生が昨年11月に実施しました。

その際に抽出した「ねり」を当日の指導者でおいでになっていた大木ゆき江さん（細川紙技術者協会：和紙漉き職人）に贈呈しました。

今回、その贈呈した榎台中学校産トロロアオイから抽出された「ねり」を原料にしてユネスコの世界無形文化遺産に指定（国の無形文化財にも指定）されている「細川紙」に漉き上げてくださり、「しおり」として完成したものが1年生に届けられました。

「細川紙」と認定されるには、多くの条件をクリアしなければなりません。その重要な条件のひとつに、「ねり」にトロロアオイを用い・・・とあります。

今回の取組は、地域の皆様からも高い評価をいただいております。今後も細川紙技術者協会の皆様にご協力いただき、さらに工夫を重ねながら継続していきたいと考えています。



「小川町立榎台中学校産トロロアオイ使用 細川紙 重要文化財保持団体 細川紙技術者協会 監製」としおりに印字されています。（10cm×3cm）

## 生徒の活躍

※ 本日、修了式後に表彰を行いました。前号で掲載していなかった活躍を紹介します。

令和4年度全国中学校人権作文コンテスト埼玉県大会東松山人権擁護委員協議会地区予選

<入賞> 2年生2名

第66回全国学芸サイエンスコンクール旺文社赤尾好夫記念賞書道部門 中学生の部

<入選> 1年生1名

## 修了式の言葉

本日（3月24日）、修了式で1・2年生各学年代表生徒に修了証を渡しました。修了式では以下のような話をしました。

今日は修了式、1年間の締めくくりを迎えました。

1年生の皆さんは緊張して中学校生活をスタートさせて1年間、まだまだ幼さが残っていた皆さんもすっかりたくましくなりました。2年生は、中堅学年として時には3年生を支え、時には1年生をリードしてくれました。1・2年生の成長を感じて、卒業生も、きっと安心して、自分たちの抜けた後を皆さんに任せることができたことでしょう。

皆さんの成長を支えてくださった、ご家族や先生方、そしていつも一番近いところで声をかけてくれた級友や先輩・後輩。多くの方への感謝の気持ちも忘れないでください。

さて、小川町にもゆかりのある本田技研工業の創業者 本田 宗一郎さんが、ある時、「車のブレーキってなんであるかわかるか？」と社員に聞きました。「車を止めるため。」と答えた社員に、「いや、ブレーキは車を速く走らせるためにあるんだよ。」と答えたそうです。

4月から今日まで、色々なブレーキがかかる一年でした。でも、徐々にコロナも落ち着き、ブレーキがかかる場面は減っています。もちろん、アクセル全開というわけにはいかないでしょうが、そろそろスピードを出すことを恐れずにアクセルを踏み込む時期にきています。

4月からの学校生活、アクセルを踏むのは生徒である皆さんです。先生方ではありません。逆に、皆さんがスピードを出しすぎたり、コントロールを失った場面で、事故防止や安全のためにブレーキ役になるのが先生方だと思います。ぜひ、先生方を信じて皆さんのアイディアを思う存分前面に出して、アクセルを踏み込んだ学校生活を創造して行ってください。

ところで、皆さんは「いい子」になりたいですか？

確かに「いい子」は、悪いことをする「悪い子」ではありません。でも、「いい子」の中には、なんでも人の言いなりになってしまう「聞き分けのいい子」や、特定の人にとって「都合のいい子」、あの子の考えなんて「聞かなくていい子」なども含まれているような気がします。私は、皆さんにそんな「いい子」を目指してほしいとは思いません。失敗をやらかして時には迷惑をかけることがあったとしても、時には周りがびっくりするような活躍をするそんな「すごい子」になってください。

そのためには、ここだったら自分は勝負できるという、そんな得意技を持ってください。特別な特技は必要ありません。悩んでいる友達の話を何も言わずにただ黙って聞いてあげることも得意技です。誰もが素通りする道端のゴミを拾えるのだって得意技です。常に時間に余裕をもって行動し、決して廊下を走らないことも得意技です。どの子も他人には簡単にまねのできない「すごい子」です。

でも、せっかく「すごい子」になれる得意技を持っていながら、他人の目を気にして「どうせ無理だから」「周りは分かってくれないから」と、言葉にしたり行動にしたりすることをあきらめてしまう「もったいない人」も多いようです。今まで何度も繰り返し伝えてきましたが、自分自身の言動に「できない理由」を見つけようとししないでください。

明日からの春休み、4月からどんな得意技で「すごい子」になれるかを自分なりに想像しながら過ごしてください。大勢の「すごい子」がアクセルを思いっきり踏み込む。そんな櫻台中学校に皆さんがしていってくれることを楽しみにしています。

令和7年度から、櫻台中学校は西中学校と統合され、本校校舎で新しい学校として生まれ変わります。1年生の皆さんは、櫻台中学校最後の卒業生になります。先輩たちから受け継がれた『櫻の襷』を最高の形で繋いでゴールテープを切ってください。

本当に1年間ありがとうございました。春休み中、けがや病気には十分気を付けて、この体育館で皆さんが笑顔で集まれることを祈っています。そして、新学期、最上級学年、中堅学年として堂々と新入生を迎え入れてくれることも期待しています。



満開の彼岸桜。蜜を求めて集まるヒヨドリ？（校長室から）

来年度、町の予算で生徒用に購入していた新聞を、一般紙から「中・高生新聞」に変更します。

日刊（毎日発行）ではなく、週刊（週に一回発行）ですが、3部購入し、各学年（各教室）に届けられます。ぜひ、社会情勢に興味を持つきっかけにしてください。できれば、一般紙にも興味を持ってもらえると嬉しいです。新聞報道にはネットニュースとは全く異なる魅力が詰まっています。